

# 令和 4 年版環境白書 (トピックス)



### 再生可能エネルギー由来 100%電気の普及



県では、脱炭素社会の実現に向けて、再生可能エネルギーの普及拡大を図るため、県有施設における再生可能エネルギー由来 100%電気の導入を進めています。

令和3年度は、富士山世界遺産センター、ふじのくに地球環境史ミュージアム、ふじのくに茶の都ミュージアムの県有3施設で再エネ100%電気を調達しました。この取組による二酸化炭素排出量の削減効果は787 t-CO<sub>2</sub>で、一般家庭約260世帯の年間排出量に相当します。

また、令和3年11月に再エネ100%電気の普及促進のアイコンとなる「再生可能エネルギー100%ふじっぴー」を作成し、再エネ100%電気を導入した県有施設や企業のPRに活用しています。



再エネ100%ふじっぴー



再エネ100%電気導入施設の様子

### 県立浜松城北工業高等学校が脱炭素チャレンジカップ 2022 文部科学大臣賞受賞！



県立浜松城北工業高等学校は、教育目標に「地球にやさしいエンジニアの育成」を掲げ、30年以上にわたり環境教育に取り組んでいます。その中心となる環境部の「地球にやさしいエンジニアを目指し共感の輪を拡げる環境教育活動」の発表が、脱炭素チャレンジカップ2022で文部科学大臣賞を受賞しました。

地域の植生を生かした「城北の森」の手入れや地域の森づくり、リサイクルステーションの設置、地域の自然を守る環境ボランティア活動やエコツアーなどの社会体験活動の実施、市内の高校生や地域住民との連携、地域の子ども達を対象とした城北ジュニアエコスクールの実施など、幅広い年代や組織と協力して、多岐にわたる活動を実施しています。

また、環境ボランティア活動に年間35時間以上参加した生徒には、卒業単位として1単位を認定しています。



地域の森づくり  
(浜松市中区の椎木谷)



植樹活動  
(浜松市南区の遠州灘防潮堤)



### 省エネ住宅連続講習会「環境と健康を考えたこれからの家づくり」を開催！



静岡県住宅振興協議会では、県民の皆様を対象として省エネ住宅の概要やメリットなどを解説する「省エネ住宅連続講習会」を実施しています。

令和3年度は、「環境と健康を考えたこれからの家づくり」をテーマに、建築家丸谷博男先生を講師にお招きし、全3回の講習会を行いました。SDGsと住まいの関係性から、住宅の換気に関することや木材の利用まで、幅広い視点から省エネ住宅についてお話いただきました。

新型コロナウイルスの影響により、対面で開催できたのは1回のみとなりましたが、多くの方にご参加いただき、とても充実した講習会となりました。



建築家 丸谷博男先生による講演



web開催の様子

### 気候変動影響への適応に関する普及・啓発



地球温暖化による気候変動の影響は既に現れ始めており、今後、大幅な温室効果ガスの削減が実施されても一定程度の気温上昇は避けられないことから、気候変動影響への適応に関する普及・啓発を実施しています。

令和3年度は、気候変動の適応に関する体験型展示ツールを作成し、県内の商業施設で啓発活動を実施しました。

また、身近な気候変動の影響とその適応策をもとに作成したカードゲーム「ふじのくに気候変動適応アクションカード」を使い、中高生や大学生、教員を対象としたワークショップを開催して気候変動適応についての理解を深めていただきました。



体験型展示の様子



カードゲーム

### 地球温暖化防止活動知事褒賞



県では、地球温暖化防止に顕著な功績のあった個人または団体に対し、その功績を称えるため、静岡県地球温暖化防止条例に基づき知事表彰を行っています。

令和3年度は、温室効果ガス排出削減対策部門として、排水処理施設での高効率装置導入と効率的な運用の開発により大幅な削減を達成したスズキ（株）相良工場と、ソーラーパークの設置や継続した省エネ活動を実施した池戸電気（株）を表彰しました。また、地球温暖化防止普及・啓発部門として、学生と地域住民が楽しんで継続しやすい活動を展開した学校法人中野学園オイスカ高等学校と、施主が採用しやすいZEBの創出及びZEBの普及啓発を展開した須山建設（株）を表彰しました。



表彰式の様子



### 海洋プラスチックごみ防止「6 R 県民運動」として 山梨県、富士市と合同で海岸清掃を実施



海洋プラスチックごみは、毎年 800 万トンも世界の海へ流出していると推計されており、発生抑制と流出を防止するため、令和元年度から本県独自の「6 R 県民運動」（従前の 3 R に Refuse（断る）、Return（店頭回収の利用）、Recover（清掃する）を加えた 6 つの R）を展開しています。

令和 3 年度は、富士市や N P O の協力を得て、富士市内の海岸で県主催の清掃イベントを 10 月 30 日に開催し、約 200 人に参加いただきました。

海洋プラスチックごみの 8 割は内陸部で発生したものが川などを経由して海に流出したものとされていることから、富士川上流域にあたる山梨県とも連携し、合同で実施しました。

引き続き 6 つの R を実践してもらえよう啓発に取り組んでいきます。



海岸清掃イベントを富士マリンプール付近の海岸で実施



富士市、N P O のほか山梨県も参加

### 多様な主体と連携して食品ロス削減を啓発



県では、一般廃棄物の削減を目指して、県民が日常的に関わる「食」に着目し、家庭や外食店での食品ロス削減の啓発に取り組んでいます。

令和 3 年度は、小中学生を対象とした出前講座を実施し、6 つの学校において食品ロスの現状とその削減に向けた取組について説明を行いました。

また、県内のコンビニエンスストアと協力し、商品棚の手前にある販売期限が近い商品を積極的に選ぶ「手前取りキャンペーン」を実施し、ポスターや P O P（店頭販促物）を 750 店舗で掲示しました。

日々の食生活や買い物の際にも食品ロス削減につながる取組を意識して実践してもらえよう、今後も啓発を続けていきます。



小中学生を対象とした出前講座



手前取りキャンペーンのポスター

### 静岡市西ヶ谷清掃工場で生成された熔融スラグが日本初の肥料本登録！



静岡市では、西ヶ谷清掃工場でのごみ処理過程で生成される『熔融スラグ（焼却灰を溶融して生成した安全なガラス状固化物）』の農業用肥料としての活用を、産学官連携により研究してきました。

平成 29 年には農業用肥料仮登録、平成 30 年には J A 経済連を通じて「S K ケイカル」の商品名で肥料の販売を開始しました。その後、関係機関との度重なる協議の結果、令和 4 年 3 月に日本で初めて「肥料の品質の確保等に関する法律第 7 条」の規定に基づく農業用の肥料として本登録に至りました。

生ごみ以外の一般廃棄物からも肥料が生成できるとして、この結果が一層、循環型社会の形成に貢献していくことを期待しています。



スラグイメージ

**SKケイカル**



SKケイカル